



さらに官房長官の発表には「ただちに影響はない」と断言しました。それでは「ただちにでない」が、後になると影響が出ますよ、といっているようなもので、主婦感覚では余計に心配になります。「直ちにも、将来的にも全く心配ありません」と言うべきです。

例えばキヤベツが暫定規制値を上回ったと発表された。その数値は1年間にわたって摂取した場合であって、365日連日キヤベツを食べますか。

そして福島産の農産物、水産物は危険だ、中国産の野菜は大丈夫と書いていたが、2年前は農薬まみれで中国産野菜は危険だと主張していた、おなじ誌です。

最近、新しい売り場を実験的に始めた売り場がある、産地の表示の他に「測定値が表示してある」、野菜や果物の値札、産地、測定値が表示してある札が付いている。

店頭に置く放射能測定器で放射性ヨウ素、セシウム137が検出されれば、それを表示し暫定規制値が安全を示す数値であることを消費者が理解してもらうためにも必要なことで、産地別だけの表示は単に差別化を強化するだけに過ぎない。

店内では各国の規制値一覧表を配布、特にチェリノプリ事故があったウクライナの規制値の比較も出来る。

国が安全宣言したから安全だ、国が暫定規制値を発表したから、これは危険なんだ、と短絡的に判断しないで、消費者参加の安全基準値を考えましょう。